

留学生は何に困難を感じているか

—2003年と2012年のアンケート調査結果から—

Difficulties International Students are facing. Results from the Survey in 2003 and 2012

藤井 桂子

キーワード：留学生支援 アンケート調査 留学生活における困難 経済的な問題 国費留学生と私費留学生

Key words: international student support, questionnaire survey, difficulties international students are facing, financial difficulties, government financed student and privately financed student

Abstract

We conducted questionnaire surveys in 2003 and in 2012 to find out what type of difficulties this university's international students have been facing. The following points became clear for the results of the two surveys.

1) One of the most serious difficulties that international students face has to do with finance. However, the situation in 2012 became better than in 2003 for privately financed students due to the new policy of prioritizing entry into the inexpensive university dormitories as well as their better financial condition owing to the economic development of their countries. The economic gap between the government financed students and the privately financed students has been reduced. 2) The other serious difficulty international students face is Japanese language. They think communication in Japanese is especially difficult. 3) Getting a permanent job became more serious for international students. 4) With regard to accommodations, some students still have complaints and requests though the condition became better than in 2003. 5) The percentage of undergraduate international students facing various difficulties is higher than those of research students and graduate students in 2012 as in 2003. 6) 23% of international students realize that it is not so easy to socialize with Japanese (students).

1. はじめに

留学生受け入れ 10 万人計画の達成、またその後の留学生受け入れ 30 万人計画などが進む中、留学生を取り巻く状況や個々の留学生在が背景に持つ事情も様々に変化してきている。留学生達は、現在何を問題と感じ、どのような支援を必要としているのであろうか。留学生在が抱える問題を探ることを目的に、2012 年度に留学生在を対象とするアンケート調査を行った¹。2003 年度に留学生在を対象に行った調査と対

¹ このアンケート調査は 2012 年度の外国人留学生支援検討方策検討専門小委員会の企画として行った。この小委員会は各部署の留学生在担当教員、留学生在支援関連の事務職員を構成員とし、留学生在センター生活指導部門 2 名の教員が、委員長と事務局を担った。

照できるよう、「留学生はどんなことに困っているのか」という同じテーマで、ほぼ同じ構成のアンケートを行うこととした。本学の留学生数はアンケート調査の時点で、861名。2003年の留学生数は857名である。この間の留学生数は多少の変動はあるものの、この数年900名前後で推移している。大学としては今後より多くの留学生を受け入れて行くことを目標に掲げている。これからの留学生支援を考える上でも現状やこれまでの変化等をとらえておく必要があると思われる。以下、今回のアンケート調査の結果を、2003年度の調査結果との比較を交えながら報告する。

2.調査の概要

アンケート調査は2012年7月から8月にかけて行った。2003年度の調査に倣い、留学生に負担にならずに短時間で回答できるよう設問をしばりA4表裏に収まるコンパクトなアンケート用紙を作成した(参考資料参照)。アンケート用紙は、留学生センター、大学寮、学生支援課等、留学生の出入りがある場所で配布したほか、留学生センターのホームページにファイルを載せ、メーリングリスト等で留学生に対して協力を呼びかけた。アンケート回収は主な配布先に回収箱を設けて行った。回答数は202で留学生全体861名(2012年春学期)の24%に当たる。内訳は、以下の表に示したように、学部生69名、大学院生90名、研究生18名、その他(交換留学生他)25名であった。また、202名のうち国費等奨学金受給者が86名(国費68名、その他18名²)で全体の42%、私費留学生は116名(学習奨励費・民間奨学金35名、奨学金なし79名、回答なし2名)で全体の58%であった。また、住まいに関しては、民間アパートに住む者75名、大学寮59名、大岡IR³32名、横浜市や神奈川県寮26名、その他6名、無回答4名であった。一方、2003年の調査については、回答数245(全留学生857名の29%)で、内訳は学部生94名、院生101名、研究生32名、その他18名であった。奨学金については、文部科学省の奨学金を受けていると回答したものが72名、奨学金なしが100名、民間奨学金が15名、回答なしが55名、その他が3名であった。住まいについての質問は2003年の調査では設けていない。

	2012年		2003年			2012年		2003年	
	学部生	69名	94名	国費		68名		大学寮	59名
大学院生	90名	101名	政府や機関等留学生	18名		大学内新宿舍(民営)	32名		
研究生	18名	32名	文科省奨学金		72名	民間アパート	75名		
交換留学生等	22名	18名	国費/文科省奨学金計	86名	72名	横浜市、神奈川県寮	26名		
その他	3名		学習奨励費・民間奨学金	35名	15名	その他	6名		
合計	202名	245名	奨学金なし	79名	100名	回答なし	4名		
在籍留学生数	861名	857名	回答なし	2名	55名	合計	202名		
回答者/在籍留学生数	24%	29%	そのほか		3名				
			私費留学生等計	116名	173名				

<表1 回答者の内訳>

² その他に含まれるのは、JICA、世界銀行の奨学金、母国政府の奨学金等、国費と同程度の奨学金を受けている者である。

³ 大岡IRは大学の敷地内に建設された民間が運営する新宿舍である。

3. アンケート調査の結果と考察

アンケートは、属性を尋ねる設問のほか、大きく ABC の 3つの部分からなる。始めの A の部分では「あなたが、横浜国立大学で学んだり、生活したりするときに、困っていること、相談したいこと、助けてほしいことは何ですか」という質問を設け、以下の 12 項目の中から当てはまる項目がある場合は、それぞれの程度困っているかを「1. 少し困っている」「2. 困っている」「3. とても困っている」の中から○をつけて選べた。選択肢以外に困っていることがあれば、13 項目目のその他のところに記述させた。

- | | |
|-----------------------|------------------------------|
| 1. 住居のこと（アパート、寮などの問題） | 7. アルバイトのこと |
| 2. 経済的なこと（お金のこと） | 8. 進学のこと |
| 3. 勉強・研究のこと | 9. 就職のこと |
| 4. 日本語のこと | 10. 生活習慣、大家さんや近所の人たちとの付き合いなど |
| 5. 友だちや先生との人間関係のこと | 11. 病気・精神的な不安など |
| 6. チューターのこと | 12. いろいろな不満・苦情など |
| | 13. その他（ ） |

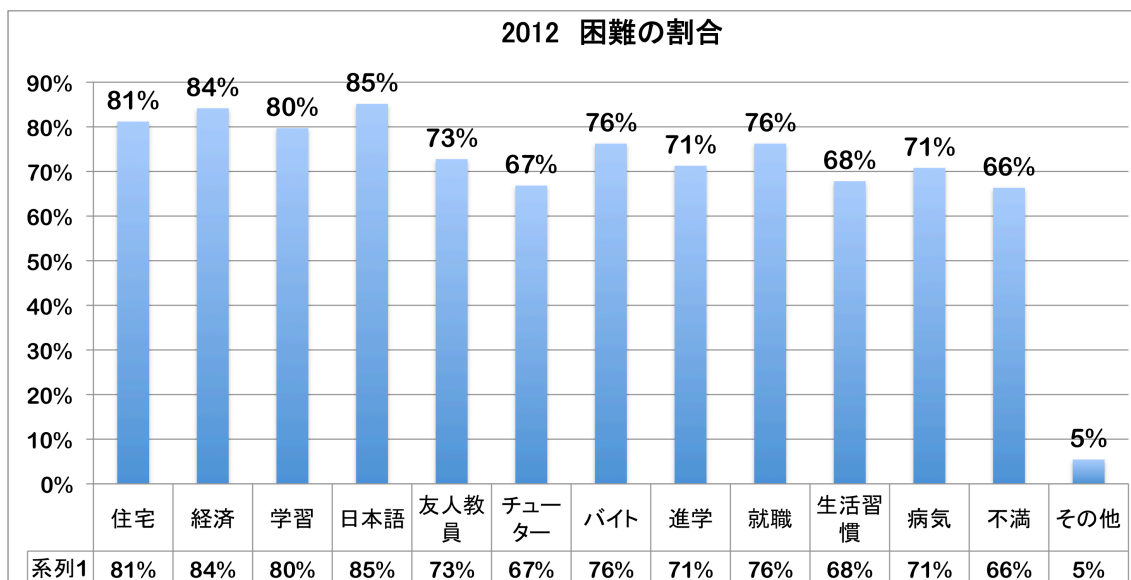
次に B の部分では、アンケートの A の部分で困難度を尋ねた各項目について、具体的に何に困難を感じているかを、選択肢を示した上で当てはまるものすべてをマークするよう求めた。選択肢にないものは、記述を求めた。

最後に C の部分で自由記述を求めた。

3-1 困難を感じている事柄と割合

まず始めに、A の部分の回答結果から困難を感じている事柄とその割合を見たい。

次のグラフは、2012 年の調査において、困難を感じているとマークした留学生が項目ごとにどのくらいいるかその割合を示している。グラフ内の表のスペースが限られているため、各項目はキーワードで記している。なお、本文中においてもキーワードで各項目を示す場合がある。

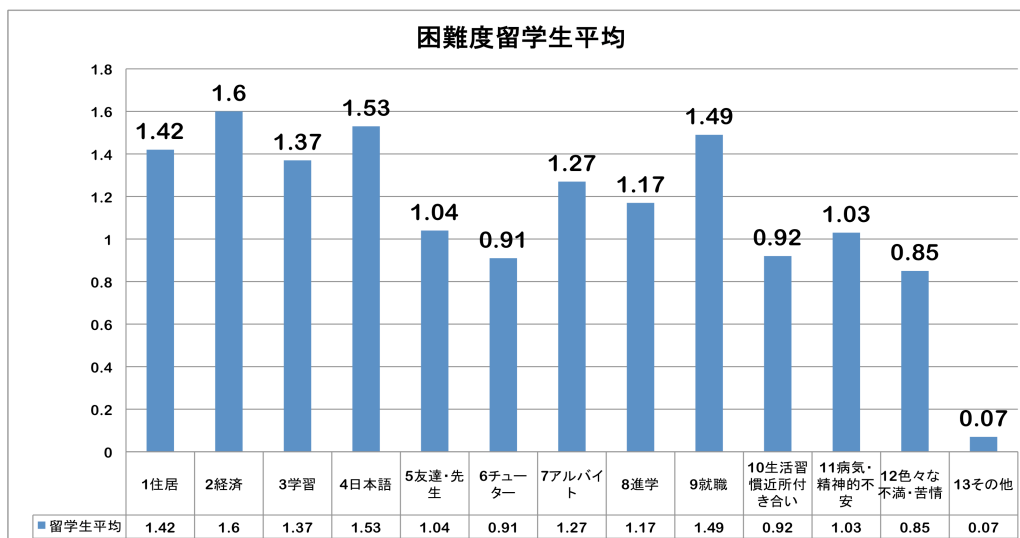


<図1 困難を感じている留学生の割合>

上の棒グラフの各項目の数値が示すように「日本語のこと」、「経済的なこと」、「住居のこと」、「学習（勉強・研究）のこと」の順でパーセンテージが高い。この4項目については、80%から85%の学生が困難を感じているとしている。次いで高いのが「アルバイトのこと」と「就職のこと」で、ともに76%を占める。このあとの順位は「友達や先生との人間関係」、「進学のこと」、「病気・精神的な不安」、「生活習慣、大屋さんや近所の人との付き合い」、「チューターのこと」、「いろいろな不満」となる。各項目とも回答者全体の66%以上が困難を感じていることになり、留学生活に困難をとまなっている学生が多くいることがわかる。次に困難さの度合いを見ると以下のようなになる。

3-2 困難の度合いについて

3-2-1 困難度の比較

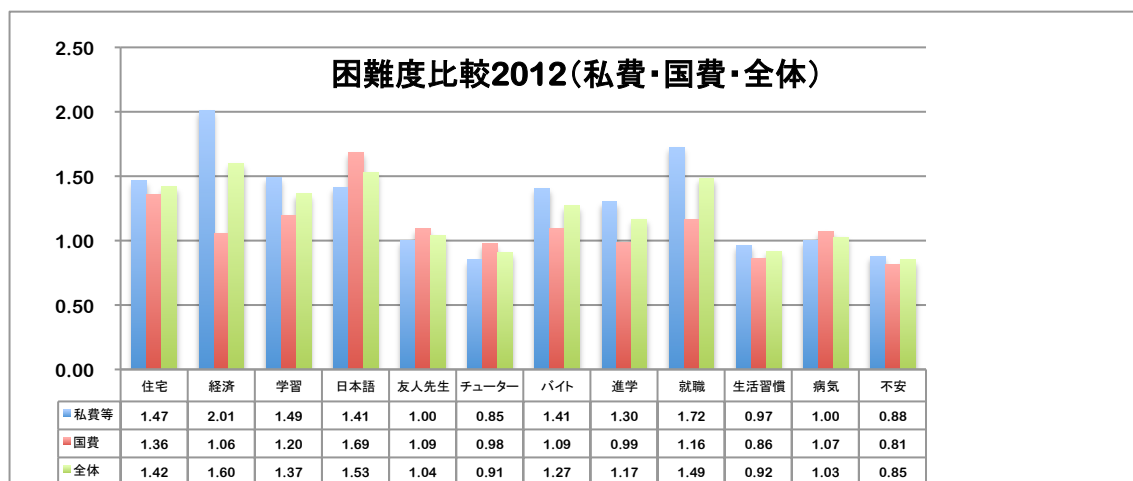


〈図2 2012年 困難度留学生平均〉

上のグラフは、困っている度合いを見るため、「とても困っている」を3点、「困っている」を2点、「少し困っている」を1点、「困っていない」を0点としてそれぞれの回答者数を掛け、その合計を全体の回答数で割った数値を示したものである。これを「困難度」として見ると 困難度が高い方から「経済的なこと」、「日本語のこと」、「就職のこと」、「住居のこと」、「学習」の順となる。「日本語」は、困難を感じている学生の割合が一番高いが、どの程度の困難を感じているかの困難度すなわち深刻度では、「経済的なこと」が「日本語」を上回っている。また、「就職」は、困っていると回答した人の数は5番目であったが、困難度は「住宅」や「学習」を抜き、3番目となり、深刻度が高い。6番目が「アルバイトのこと」で、以下は「進学」「友人」「病気・精神的不安」「生活習慣」「チューターのこと」「いろいろな不満」の順となる。「進学」と「友人」の順位が逆転していること以外は、困難を感じている学生の割合とほぼ同じ順位である。「チューターのこと」は、今回あらたに加えた項目である。全項目の中では、困難を感じている割合、困難度の両方とも順位は2番目に低かった。

3-2-2 私費留学生と国費留学生の困難度の比較

以上、回答者全体についての困難度を概観したが、項目によっては経済的支援が大きい国費留学生と支援が乏しい私費留学生に大きな違いがあることが考えられる。そこで、次に国費留学生と私費留学生の困難度を分けたグラフを見ていきたい。なお、ここでいう国費留学生とは、国費留学生と同程度の経済的支援のある留学生（JICA 留学生等）を含めたものである。奨学金についてははっきりした回答がない場合は私費留学生に含めた。グラフでは、青色が私費留学生、赤色が国費留学生である。参考のため留学生全体の数値を緑色で示している。

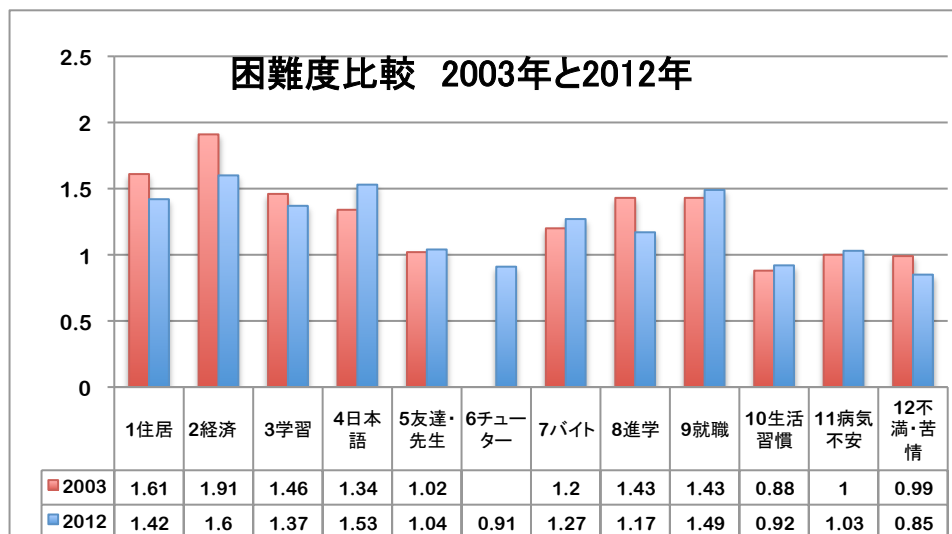


<図3 2012年困難度比較(私費・国費・全体)>

上のグラフの中で、青色で示された私費留学生と赤色で示された国費留学生の差が大きいのは、2項目目の「経済的な問題」と9項目目の「就職」である。この二つの項目は、私費留学生においては、困難度が上位2つの項目でもある。「経済」の数値は私費が2.01であるのに対し国費は1.06に留り、「就職」では私費1.72に対して国費は1.16である。そのほか「アルバイト」「進学」「学習」において私費の困難度が国費より高く、グラフからも差を見ることができる。一方、全体で2番目に困難度の高い「日本語」については、国費では最も困難度の高い項目となっており、数値も私費より高い。住宅については、私費が国費を上回るが、大きな差はみられない。私費と国費と同水準の項目もあるが、全体を見ると、8項目で私費が国費の値を上回っている。困難度の総数を比較すると、私費が15.5で、国費が13.8となる。私費留学生の方が、多くの面で、困難を感じる度合いが高い留学生活を送っていると言える。

3-2-3 2012年と2003年の困難度の比較

困難度を2003年の調査結果と合わせて示しているのが下のグラフである。項目立てはほぼ同じであるが、2012年の調査は、次の点が2003年の項目立てと異なる。ひとつは、6項目の「チューターのこと」を追加した点、もうひとつは、「進路」として1項目で扱っていた「進学・就職」を「進学のこと」と「就職のこと」に分け、項目を独立させた点である。なお、グラフでは、2003年の「進学・就職」の数値を参考として両項目の横に示している。以下では、全体の傾向を見ておきたい。



<図4 困難度比較 2003年と2012年>

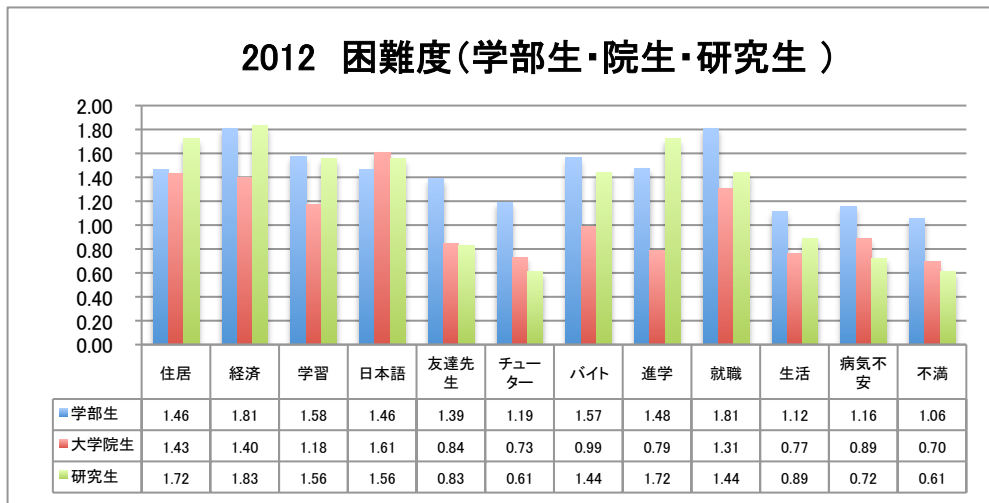
青で示した2012年と赤で示した2003年との困難度を比較してみると、数値が下がっているのが、左から順に「住居」「経済」「学習」「進学」「不満」の5項目で、上昇しているのが、「日本語」「アルバイト」「就職」の3項目、「友達・先生」「生活」「病気」は微増しているが、ほぼ横ばいである。2003年度は他の項目より抜け出て高かった「経済」「住居」が減少した一方で、5番目の順位にあった「日本語」が、2012年の調査では2番目に高い数値となっている。留学生にとっては、「日本語」が留学生活の中で以前より相対的に大きな問題として捉えられていることになる。また、「就職」は全体の中では「日本語」や「経済」につぎ3番目に高い数値を示し、重要な問題になってきていることが伺える。「住居」についての困難度や順位が下がっているのは、この間、寮の入居基準の変更、さらに新しい宿舍が建設されたことなどにより、留学生、特に私費留学生在が安価な大学寮に入居できる機会が増えるなど、状況が改善したためであると考えられる⁴。また、大学寮の家賃は民間アパートに比べはるかに低いので、大学寮への入居機会が増えることは、経済的な困難度減少にも結びつく。中国をはじめとするアジア諸国の経済力が高まり、親の仕送りが得られるなど、私費留學生の中にも経済的に余裕のある留學生が増えて来たことも、経済的な困難度減少に影響があると考えられる。身分等によって、困難度に違いがあることが考えられるので、単純な比較はできないが、全体としては、困難度は緩和されていると見る事ができる。

3-2-4 学部生、院生、研究生の困難度の比較

ここでは、留學生の身分（学部生、大学院生、研究生）により、困難度に違いがあるかを見ていきたい⁵。

⁴ 国費留學生が優先的に2年間安価な大学寮に入居していたものが、現在は、国費留學生には大学寮より家賃の高い新宿舍が割り当てられ、私費留學生にとっては安価な大学寮（入居期限1年）に入居できる機会が大幅に増した。また、住宅を借りる際の保証人については、大学の機関保証制度が2002年からスタートしたが（現在は民間の保証会社利用に移行）、2003年の調査時点では、この恩恵にまだ預かっている留學生がいたと思われる。

⁵ この3つの身分の比較においては、在籍の期限が限られた交換留學生や教員研修生は除外している。

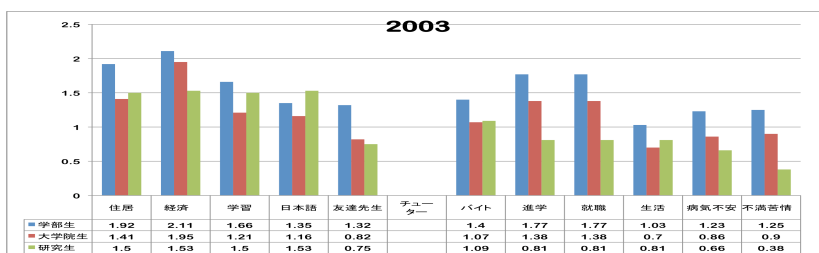


〈図5 困難度比較(学部生・院生・研究生)〉

上のグラフでは、青が学部生、赤が院生、緑が研究生を示している。学部生は、全12項目の中で、「住居」「経済」「日本語」「進学」を除く他の8項目で、院生、研究生より高い数値を示している。研究生は、「住居」「経済」「進学」の3項目で、学部生、院生より数値が高い。院生は日本語の項目のみ、学部生、研究生より数値がわずかに高い。全項目の困難度を足し合わせると、学部生17.1、院生12.6、研究生15.0となり、**学部生の困難度が最も大きい**ことがわかる。院生との比較では、「日本語」と「住宅」を除くほかの全項目の数値が、学部生のほうがあきらかに高い。学部生の困難度全般が高いという結果は、2003年度の調査でも見られた^{6/7}。2回の調査から見ると、**学部生は院生や研究生より様々な困難を感じながら留学生活を送っている傾向が強い**と言える。違いを生む要因としては、滞日年数の長さや、必要単位数の縛り、年齢や人生経験などがあるのではないだろうか。一方、院生については、他の項目と比べると**日本語の困難度の高さが目立つ**。研究生については、「進学」の項目が「経済」的な問題に次いで高い点が特徴づけられるが、大学院進学を控えた研究生の立場からは当然のものと言える。また、2003年の調査結果と比べると困難度全般の数値が上昇しており、研究生にとっては困難が増した状況にあることが伺える。

⁶ 2003年の調査では、すべての項目で、学部生の数値が院生を上回っていた。なお、2003年では研究生の数値は2012年とは異なり、学部生より「日本語」以外の全項目が低く、院生を上回る項目も半分のみであった。研究生の回答数は他よりも少ないので、単純に比較することは難しいが、現在研究生の置かれている状況は以前より厳しくなっている可能性がある。
7

困難度(学部生・院生・研究生)

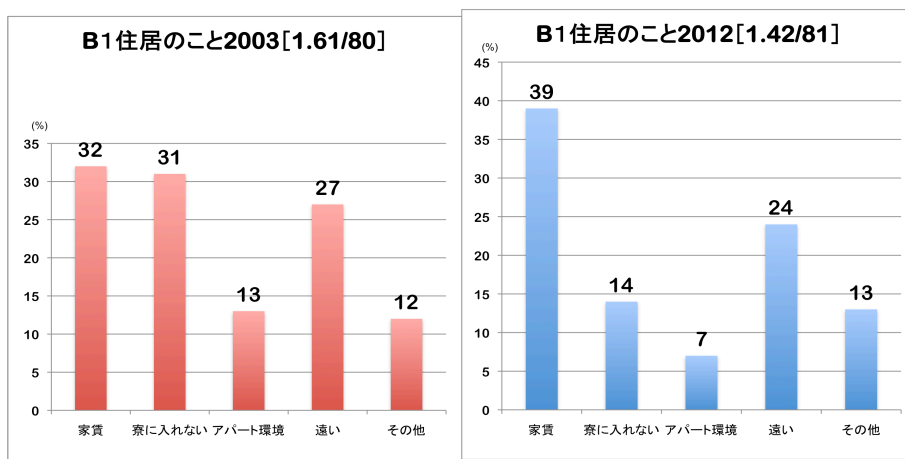


3-3 留学生の抱える困難点—2012年と2003年の調査結果から—

アンケートのBの部分では、Aの部分で尋ねた各項目について、具体的に何に困難を感じているか、選択肢を示し、当てはまるものすべてにマークすることを求めている。以下では、各項目について回答結果を、2003年の調査結果を参照しながら、順を追って見ていきたい。

3-3-1 住居について

住居に関しては、選択肢として以下のものを挙げた。「1. アパートの家賃が高い」「2. 寮に入りたいが入れない」「3. アパートの環境が悪い」「4. アパートが大学から遠い」「5. その他」の5つである。次のグラフは2003年と2012年の回答結果を回答者数に対する割合で示している。左側の赤いグラフが2003年で、右側青いグラフが2012年である。各グラフのタイトル名の右側または下の〔 〕内の数字は各項目全体の困難度および困難を感じていると回答した人の割合を示している。



<図6 住居のこと>

二つのグラフのタイトル名の右側〔 〕内の数字が示すように、住居全般についての困難度は1.61 から1.42へと減少している。個々の項目では、2003年に高い数値だった2項目目の「寮に入りたいが入れない」に大幅な減少が見られる。この背景要因としては、既に述べたように、この間、大学寮入居基準の見直しや新宿舎の建設によって、2003年の時点では私費留学生の一部しか入れなかった大学寮に、広範囲の私費留学生が入れるようになったことがある。また、このほか、家族を対象とする神奈川県の高価な宿舎への申し込みについても条件が緩和され入居が容易になり⁸、その結果、大学寮の家族室や夫婦室の入居も以前のような厳しい競争率ではなくなっていることも、状況の改善につながっていると言えよう。一方、全体的な困難度が低くなっている中で、1項目目の「家賃が高い」と感じている留学生の割

⁸ 入居者予定者全員が神奈川県に一定の期間在住していることが申し込みの条件であったが、申請者が条件を満たしており、家族の渡日予定が認められる場合は申し込みが可能となった。

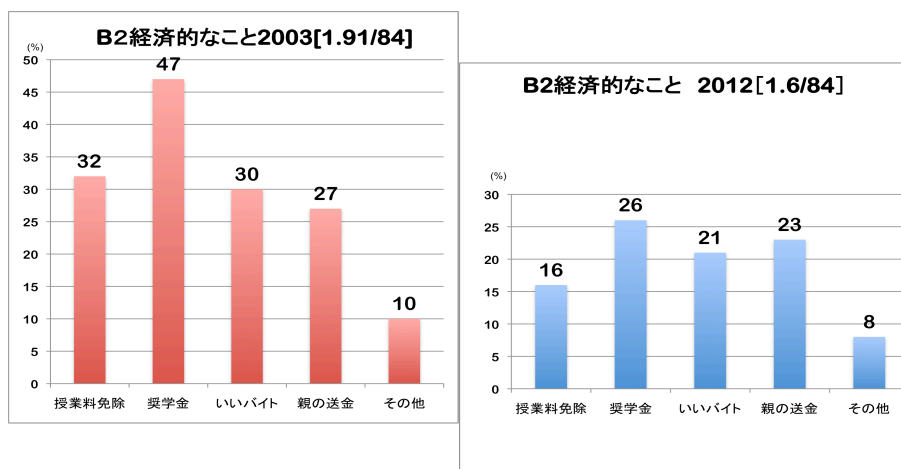
合は増加している。新宿舍の大岡 IR に住む回答者の 75%がこの項目をマークしていることが、その一因として考えられる。大岡 IR の家賃は民間アパートの平均を下回ると考えられるが、隣に位置する安価で設備が整っている大学寮との比較で家賃が高いことを強く認識するようである。民間アパートに住む学生の 43%という数値や大学寮の 19%という数値を上回っている。

住居に関する問題は自由記述によるコメントが最も多かった。2003 年の調査ではコメントの大部分が寮やアパートの入居条件等に対する不満であったが、今回の調査では同様のコメントは依然あるものの、より住みやすい環境を求める記述が多く見られた。住居に対しては求める水準が上がっていく傾向があるようで、満足を得るのは難しく思われる⁹。本学では、留学生の私費留学生の入居機会を増やし住宅問題の改善をはかるために大学寮は入居期限を 2 年から 1 年に改めたが、このことは「日本人学生は 2 年住めるのに、留学生はなぜ 1 年しか住めないのか」というあらたな不満を生むことにもなった。この点については、入居期間変更の理由を留学生に対して説明していくことが必要であろう。以下に住宅問題に関する留学生からのコメントをまとめた。なお、コメントは文体の修正等を行ったものがある。

- ・大学寮の入寮期間等に対する不満 14 件：大学の寮に 1 年しか住めないことが不満／日本人学生は 2 年でなぜ留学生は 1 年しか住めないのか？納得できない
- ・国費留学生が大学寮に住めないこと 1 件
- ・大学寮の環境・設備や管理等への不満 9 件：補食室の食べ物がよくなるなど／家賃の払い方がわからない 2 件／夏はとても暑いので出来たらエアコンがほしい 3 件／家から学校が遠すぎる／共有スペースが不満／絨毯を敷いてほしい
- ・新宿舍における設備への不満 10 件：自室にお風呂、シャワーがない 2 件／部屋が小さすぎる 3 件／目的に応じた共有スペースがほしい 5 件（留学生同士で和気あいあいと語り合う場／子供を遊ばせる部屋／勉強部屋 2 件／ジムのよう設備）
- ・新宿舍における宿舎管理、規則への不満 4 件：ルールが多すぎて管理が厳しい／管理費を払っているのに掃除をきれいにしない、特に風呂
- ・横浜市や神奈川県の寮：遠い
- ・民間アパート等への不満 10 件：保証人が必要なこと 2 件／家賃が高く、学校から遠く、狭い／冬がとても寒い／アパートの頭金が高い／交通費が高い／規則が厳しすぎる／日本人学生が外国人学生と話そうとしない／大学の手助けが限定的
- ・快適。問題ない（民間、神奈川） 2 件

3-3-2 経済的な問題について

⁹ 企業が有する社員寮数室が留学生に提供され、かつては多くの利用があったが、最近はこの制度を利用する留学生がほとんどいなくなった。企業からの提供数が減少していることも一因であるが、家賃は安くとも規則が厳しいことやインターネット環境が不整備であるといったことで、留学生の側が敬遠するケースが見られるようになり入居者の減少につながったと考えられる。



<図7 経済的なこと>

「経済的な問題」では、右側の2012年のグラフに表れているように一番数値が高いのは2項目目の「奨学金が受けられない」で、26%の学生がマークしている。4項目目「親の送金が大変」、3項目目「いいバイトがみつからない」がこれに続き、1項目目「授業料免除が受けられない」が16%となっている。2003年と比較すると、両グラフのタイトル右側〔 〕内の数字と、棒グラフの各項目の数値の変化が示すように、全体の困難度下がるとともに、各項目の割合が減少しており、経済的な困難さは緩和されているように見える。先に見たように私費と国費の状況には差があるため、ここで私費留学生の数値を元データから拾って見ると、2003年の調査では¹⁰左の項目から順に39%、65%、27%、32%、2012年では、28%、46%、21%、38%という結果になる。4項目目の「親の送金」以外の項目は数値が下がり、特に2項目目の「奨学金が受けられない」については、65%から46%へ19ポイント減少している。1項目目の「授業料が受けられない」についても11%減となっている。この間、授業料免除者の割合や奨学金の件数が特に増えているわけではなく、JASSOの学習奨励費などは減額されていることを考えると、私費留学生の中にも以前よりは経済的に余裕のある者が出てきたことが推測される。親の送金の項目が上昇しているのは、送金を前提としうる留学生が増えてきていることが反映されている可能性もある。留学生センターで受ける相談においても経済的な問題については以前に比べると減っており、今回の調査結果にもその傾向が表れていると思われる。また、家賃の安い大学寮への入居機会が増えたことも経済問題の緩和の一因となり、**国費と私費の経済的な格差が2003年時点よりも縮まってきていると考えられる¹¹**。しかし、留学生にと

¹⁰ 2003年の調査では奨学金に関する問いの選択項目が不明瞭であったため、国費留学生と私費留学生を2012年と同じ基準できちんと特定することはできないが、本稿では、文部科学省奨学金を得ているという回答の者を国費と見なし、それ以外の者を私費留学生と見なし数値を拾った。

¹¹ 住宅問題については、2003年当時は、国費留学生は民間アパートよりはるかに安い大学寮に優先的に2年間住む事ができ、その優先枠のため、私費留学生が少数しか入居できない状況が生まれていた。アンケートのコメントにおいても国費優先の大学寮の入居基準への不満が多く見られた。その後入居期間を1年に短縮したことや、新しい宿舎建設後には国費留学生は新宿舎（民間経営で家賃が大学寮より高い）に配置され大学寮単身室への入居はできなくなり、私費の大学寮への入居機会は大幅に増えることになった。このような宿舎に関する入居基準の変更、また国費奨学金の減額などが要因となり、国費と私費の経済的な格差を縮めていると考えられる。また、このことにより心理的な不公平感も緩和したと考えられる。

って困難を感じるものが最大のものが経済的な問題であることに変わりはない。今後留学生数を増やすのであれば、経済的な支援となる、奨学金、授業料免除、大学寮等への入居について何らかの策を講じるが必要となっていくと思われる。以下はその他の欄および自由記述欄に書かれたコメントである。なお、制度の誤解から出て来たと思われるコメントが何件もあり、以下文末に（・・・）を記している。

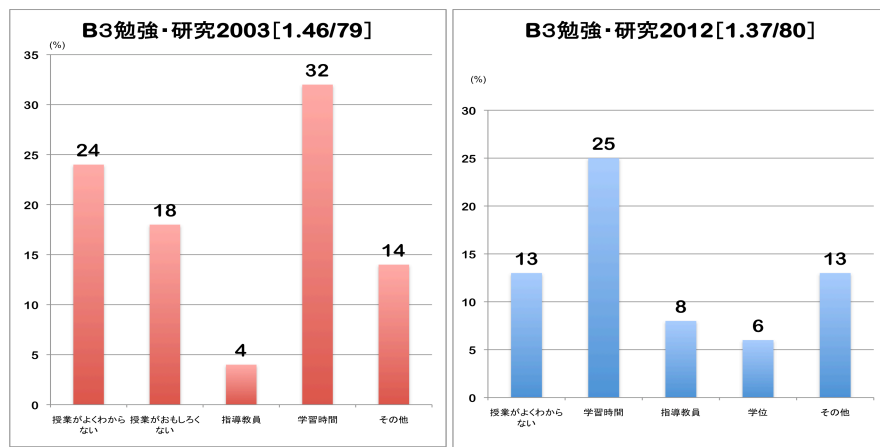
・物価（生活費、交通費）が高い6件

・アルバイトに時間がとられ勉強する時間が足りない5件：アルバイトをしなくてすむよう奨学金を受けたい／経済支援制度の相談を受けたい

・奨学金についての問題 4件：減額された／奨学金が生活費を全て賄える程十分ではない／奨学金の種類が少ない／日本語を読めない人は奨学金制度を理解するのは難しい

・その他 4件：授業料、入学金免除不十分／本を沢山買うことが好きなのでお金がかかる／国費留学生はバイトができない（・・・）。この現状を大学が改善してくれれば、奨学生は週末をもっと有効に使える。／生活：どうやって安く日用雑貨を買うかなど、分からない事がときどきあるので説明してほしい

3-3-3 勉強・研究について



<図8 勉強・研究のこと>

上の二つのグラフでは、選択肢の順と内容が異なり、左側2003年の2項目目「授業がおもしろくない」に替え、右側2012年には4項目目に「4. 学位がなかなかとれない」が入っている。そのほかの選択肢は、「1. 大学の授業がよくわからない」「2. 学習時間が十分とれない」「3. 指導教員によく教えてもらえない」である。今回2012年の調査で、数値が最も高いのは2項目目の「学習時間が十分とれない」である。元データから私費と国費の数値を拾うと、私費学部生の43%がこの項目をマークしているのに対し、国費留学生7%と数値が大きく異なっており、経済的な状況の違いが背景としてあることがわかる。学習時間が

十分とれないのは、生活費や学費の確保のためアルバイトに時間がとられるためであることが多いと言えよう。全体の数値には表れていないが、半数に近い私費留学生在が、留学の本来の目的である勉強の時間が十分とれないことに困難を感じていることになる。また、2003年の私費留学生的のこの項目の数値は40%であるので、この項目については、状況が改善されてはいないと言えるだろう。

1項目目の「授業がよくわからない」については、数値が大きく減少している。この項目は、研究生(28%)以外、留学生的の身分に関わりなく2003年度の数値24%を下回っている¹²。即ち、研究生以外の留学生的については、授業をよく理解する者が増えていると言えることになる。仮に「日本語」を授業がよくわからない要因として見るのであれば¹³、2003年時点より、研究生を除けば、日本語の理解力や聞き取り能力が高い留学生在が増えていることになる。次節で見る日本語の問題においても「講義の日本語がよく理解できない」の項目は数値が下がっており、同じような傾向が見られる。

一方、3項目目の「指導教員とうまく行かない」が増え、8%である。4項目目の「学位がなかなか取れない」も2ポイントあがり6%であった。割合としては高くないが、これらは留学生的にとって深刻な問題と言える。

・ことばの問題(日本語) 5件: 言語の壁/日本語で情報を理解することができるのは稀/日本語は少し難しい/日本人学生とのコミュニケーション 時々とても、ストレスに感じる/日本語を学ぶ授業がまだ十分に理解できない

・ことばの問題(英語) 2件: 英語力の無さ/英語の勉強が必要とされる割には、大学の英語のカリキュラムがおかしいので取れない

・教育・研究システムの問題 5件: 研究データへのアクセス方法がなかなかわからない/日本の授業は祖国のそれとは違ってから大変/三年間で博士号を取得したい/成績評価システムの不透明さが問題/先生がとても忙しい

・勉強時間の確保の問題 5件: 時間のマネジメントができない/睡眠不足で思うように授業を受けられない/研究したいが、なかなか時間がとれない/勉強、生活、アルバイトの両立ができない/日本人の学生より勉強するのに時間がかかる/

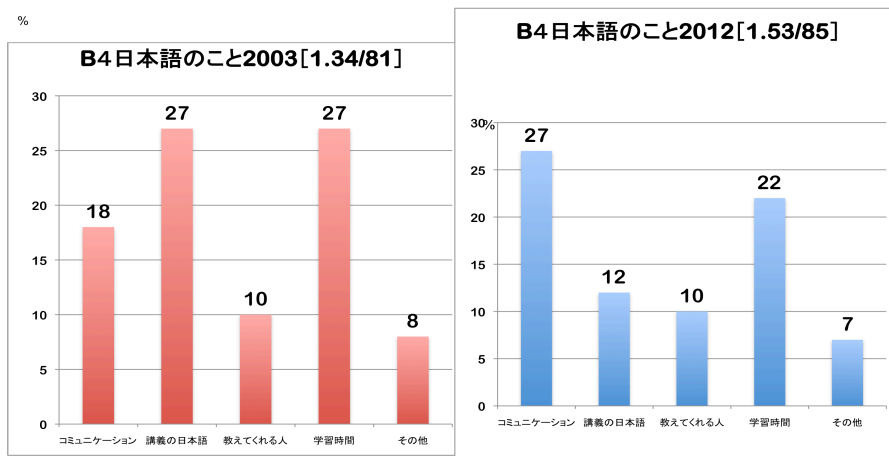
・その他: 研究が難しい/日本の学生と競争するのは厳しい/授業がつまらない/只不安/大学での勉強 タイミングが難しい

コメントの中で指摘されている、**教育・研究システムがよく理解できないという問題は、表にはあまり出てこないため、見過ごされている可能性もある**。日本人学生にとっては、当然であったり、少しの説明で理解が得られることも、異なる教育環境で過ごしてきた留学生的にとっては、十分理解ができず、大きなストレスを与えている場合もある。大学としても留学生的に対しては、専攻領域における慣習的なことも含め、より丁寧なガイダンスの場を設けることが必要であると思われる。

3-3-4 日本語について

¹² 2003年では、学部生(16%)、院生(12%)で、それぞれ国費、私費ともに24%以下の数値であった。

¹³ 2012年の調査から日本語の講義がないプログラムの留学生的の数値だけを見ると、「授業がよくわからない」をマークした学生はゼロであった。講義がよくわからない要因の大きなものが日本語である可能性を示唆する結果ではある。



<図9 日本語のこと>

各グラフのタイトル横の [] 内の数値にあるように、2003年と2012年を比較すると、「困難を感じている学生の割合」は81%から85%に、「困難度」は、1.34から1.53になり、両方とも数値が上がり、全体として日本語力を問題と感じている学生が増えていることがわかる。先に学部生、院生、研究生の困難度の比較のところで見たと同じように見ると日本語の困難度は院生の数値が高いが、国費、私費の区別を交えて数値を見ると、国費院生と私費研究生の数値が高い¹⁴。国費院生は日本に来てから日本語を学ぶ者が多く日本語力はそれほど高くはない。専門の研究については多くの場合日本語を用いなくても済むが、ゼミや研究室で日本語環境の中に身を置くので、困難を感じる場合が多いことが推測される。私費研究生は日本での滞在期間が比較的短く日本語の使用に不慣れであるにも関わらず、日本語の必要度は高く、困難を感じるのではないかとと思われる。

今回の調査では、4つの選択肢「1. 日本語でのコミュニケーションがよくできない」「2. 講義の日本語が十分理解できない」「3. 日本語を教えてくれる人がいない」「4. 日本語の学習時間が十分にとれない」のうち、1項目目の「日本語でのコミュニケーションがよくできない」が一番高い数値を示し、また前回と比較しても、大きく数値が増えている。数値が高いのは「日本語のこと」全体の困難度と同様に、国費院生と私費研究生であった¹⁵。交換留学生¹⁶、国費学部生以外の留学生の数値が上昇している。数値が上昇している要因は不明であるが、留学生の日本での就職推進の動きがある中、インターンシップや就

¹⁴ 2003年からの困難度の変化を身分ごとに見ると、国費院生 (1.23→1.80)、私費研究生 (1.54→1.79)、国費学部生 (1.34→1.65)、私費学部生 (1.38→1.35)、私費院生 (1.15→1.33)、交換留学生 (2.0→1.36) であった。交換留学生以外はほとんどのグループで困難度が上昇している。なお、母数が少ない国費研究生は除外した。

¹⁵ この項目を2003年の数値と合わせて身分ごとに見ると、私費研究生 (23%→43%) 国費院生 (29%→39%)、私費学部生 (14%→23%)、私費院生 (14%→19%)、国費学部生 (16%→12%)、交換留学生 (18%→14%) であった。矢印の左が2003年の数値である。

¹⁶ 交換留学生に関して数値が下がっているのは、東日本大震災以降、初級学習者の割合が減り、日本語力がそれよりも高い中上級者の割合が増加したことによる影響が考えられる。

職活動の機会が以前より増え、日本語のコミュニケーション力を問われることも増えているのではないだろうか。

前回の調査では 27%の学生が困難を感じるとした 2 項目目の「講義の日本語が十分理解できない」は 12%となり、数値が大きく下がっている。日本語の講義が少ない、あるいは受けない留学生が多ければ、全体の数値も下がることになるが、むしろ日本語の講義の多い学部生の数値の方が減少している¹⁷。はっきりした要因はわからないが、日本のアニメへの関心が高く母国で日本語音声を目にしているような学生は聞き取り能力が高く、そうした留学生の比率が増えている印象がある。

4 項目目の「日本語の学習時間が十分にとれない」の数値は下がっているものの、22%を示している。元データで数値が高いのは、私費院生 (28%)、国費院生(26%)、である。専門分野の勉強や研究が優先されるため、日本語を学習する時間をとれないことも少なくないようである。

下のコメントに見られるように、日本語の読み書きの問題や日本人との接触の機会が少ないという指摘もなされている。日本語に関しては留学生センターでは全留学生を対象にレベル別、技能別の日本語のクラスを提供しているほか、交流・相談室 105 では学生スタッフが日本語学習の手助けや日本語トークタイムを行っている。また、学外のボランティア団体から日本語の個別サポートを受けることもでき、150 名程度の留学生が常時支援を受けるようにもなった。しかし、アンケートの結果を見ると、困難度は上がっており、その点では、日本語学習のサポートはさらに必要であると言えるだろう。

・日本語の能力(話す聞く)の問題 4 件: 日本語を喋るのに自信がない/十分に理解出来ない授業がある /敬語が難しい /日本語能力は上達しているのでコミュニケーションも以前よりも楽になってきた

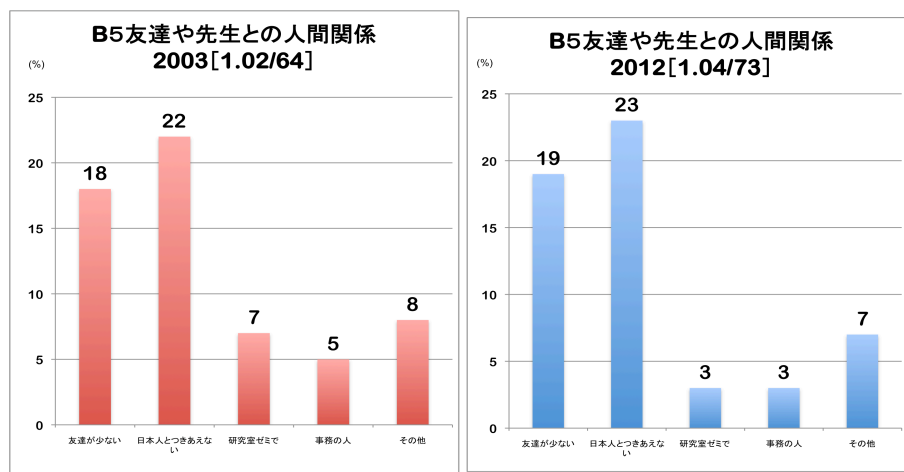
・日本語能力(読む書く)の問題 6 件: 漢字が難しい /論文執筆にあたっての問題 /レポートが大変 /文章を作るのは難しいが、単語を並べるのならまだ出来る/読まなければいけないものと調べなければいけない事が多すぎる /敬語が難しい

・日本語学習の環境 5 件: 日本語のクラスはもっと自由に参加できるようにするべき /正しい日本語に直してくれる人が周りに少ない /日本人の友達があまりいない。/バイト以外日本人との接触がない/日本語練習の場が少ない

・その他: 言語を学ぶのは大変だが頑張る /上級にあがらない

3-3-5 友だちや先生との人間関係

¹⁷ 「講義の日本語が十分理解できない」についての数値の変化は以下のとおりである。国費院生 (11%→6%)、私費院生 (18%→22%)、国費学部生 (31%→15%)、私費学部生 (23%→7%)、交換留学生 (36%→10%)。

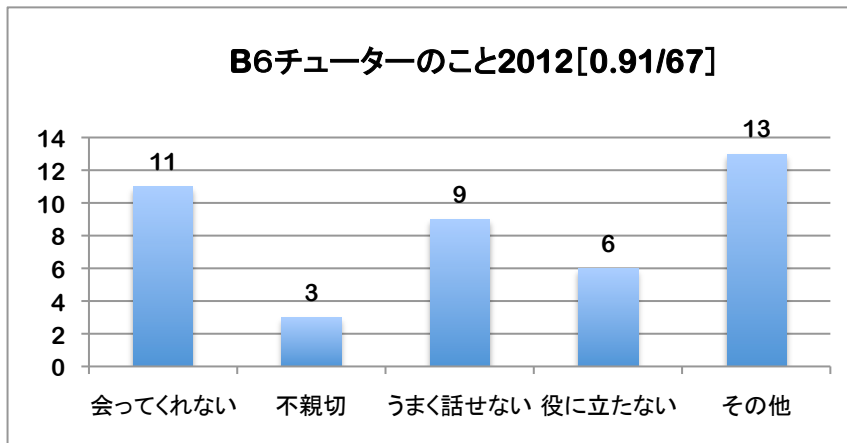


<図10 友達や先生との人間関係>

この項目については、タイトル下の [] 内の困難度はほとんど変わらないが、困難の割合は少し増えている。今回最も高い項目は2項目目の「日本人（学生）とうまくつきあえない」で、次いで1項目目の「友達が少ない（いない）」が高く、両方とも2003年とほぼ同じような数値である。4人に一人の留学生が日本人学生とのつきあいに困難を感じ、また5人にひとりには友達があまりいない状況にあることになる。3項目目の「研究室やゼミの人間関係がよくない」と4項目目の「事務の人とうまくつきあえない」は数値が下がっており、日本人との友人関係がうまく築けないことに現在の問題があると考えられる。大学での友人関係は、勉学の場の他にクラブ活動やサークル活動で培われる場合が多いと考えられるが、こうした活動への留学生の参加は日本人学生に比べはるかに少ないであろう。周りに良好な人間関係があること、特に心が通い合う友人がいることは、留学生生活の大きな支えとなるに違いない。アンケート最後のCの自由記述のところにも日本人学生との交流を望む声がかかれている。留学生と日本人学生をつないでいく仕組みを学内の各所で積極的に設けていくことが求められていると言える。コメントには以下のものがあつた。

- ・コミュニケーションの問題3件: コミュニケーションの壁/壁を感じる / 自分のことを正確に日本語で説明するのが難しい
- ・指導教員との問題2件: 担当教授が他の先生よりも厳しい / 先生の指導がうまくいかない。思った通りにうまく進まない。
- ・うまくいっている3件: 友人と一緒にいるのは幸せ / 良い / いいです

3-3-6 チューターについて

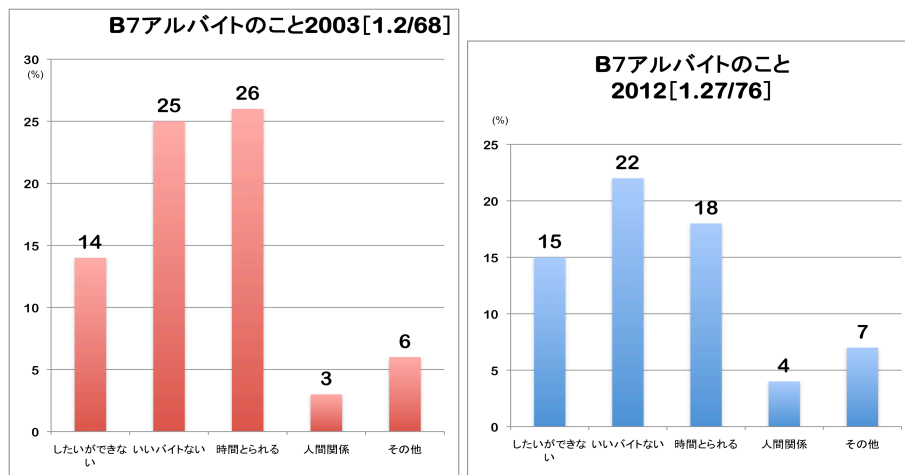


<図11 チューターのこと>

チューター制度が必ずしもうまく機能していないことがしばしば聞かれるため、今回このことがらを追加したが、全体の中では、困難度、困難を感じている学生の割合は、最も低い「いろいろな不満・苦情」に次いで2番目に低く、他のことがらに比べると重要度が下がると考えられる。グラフで数値が高いのは1項目目の「チューターがあまり会ってくれない」と3項目目の「チューターとうまく話せない」である。そもそものコミュニケーションがなりたっていない場合があることになる。数値には表れていないが、他のことがらに比べ、コメントの件数は多く、関心や問題点があることがわかる。留学生のチューターの選び方は、部局によって異なり、意欲的な学生がチューターとして選ばれる一方で、教員から声がかかり仕方なく引き受けたというチューターもいる。いずれにしても、チューターに何をサポートしてもらいたいのか、チューターがサポートできることは何かについて、互いに話し合いながらこの活動が進められることが肝要で、教員のチェックも場合に応じて必要であろう。昨年より、年1回であったチューター説明会が学期ごとに行われ、また委嘱状を渡し自覚を促すなど、新しい動きも始まっている。留学生と日本人学生の双方に教育的効果のある制度として、少しでも有効に機能していくことが望まれる。コメントは以下のとおりである。

- ・チューターへの不満等：チューターが会ってくれない。会っていない3件/互いに忙しくて会う時間がない2件/役に立たない2件/チューターの業務に関心がなく英語もできない/コミュニケーションの壁がある2件/英語ができない
- ・その他：チューターがいない4件/チューターに助けを求めることに躊躇する・チューターがほしい2件/必要ない2件
- ・問題ない3件：親切で何の問題もない/チューターはとても忙しい人だけれど良くやってくれている /喋ったり会ったりする上でそんなに問題はない

3-3-7 アルバイトについて



<図12 アルバイトのこと>

アルバイトについては、全体の中で困難度は中位にあるが、2012年は2003年に比べ、困難度、困難を感じている学生の割合が若干増えている（グラフのタイトル下 [] 内の数値参照）。

元データから数値を拾い、身分ごとに見ると、困難度が高いのは、私費研究生(1.64)、私費学部生(1.60)、国費学部生(1.50)で、院生の数値は低い。グラフの1項目目の「アルバイトをしたいができない」は1ポイント上昇しているが、これをマークしている割合が高いのは国費留学生で（学部生23%、院生19%）で、私費留学生の数値（学部生14%、院生11%）より高い。アンケートではアルバイトをしているかどうかの設問はないので、実際にアルバイトをしているかは不明であるが、国費留学生であってもアルバイトをすることを望んでいる学生がいるということがわかる。2項目目「いいアルバイトがない」は国費学部生(31%)の比率が高く、いいアルバイトがあればしたいと望んでいるが、なかなかいいアルバイトが見つからないという現状があることが伺われる。

一方、減少が見られるのは、3項目目の「アルバイトに時間をとられてしまう」である。これは、生活のために学業の時間を割かなければならない私費留学生を想定して設けた項目だが、私費留学生の数値においても32%からの24%に減っている。勉強との両立の困難を訴えるコメントの件数も2003年の11件に対し、3件と減少している。長時間のアルバイトが必須ではない私費留学生の増加が示唆される。

全体として困難を感じるという割合や困難度の数値が上がっているということは、経済的に余裕が出てきた私費留学生がいる一方で、強い困難を感じている私費留学生や、アルバイトを望む国費留学生が増えていること、またコメントにあるように、個々のアルバイトの内容に困難を感じている留学生がいることなどが要因として考えられることになる。以下は今回の調査のコメントである。

・勉強との両立が問題3件：アルバイトを頑張ってやるせいで勉強をする時間がありません／毎日学校で週末はアルバイトで時間がない／妻がバイトをしているので自分はバイトをせずに勉強ができています。いなければ両立できない。

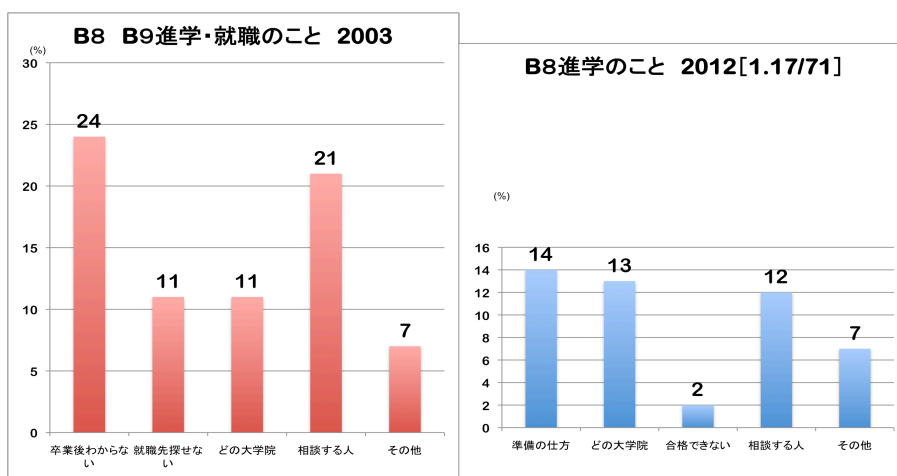
・その他：バイト先での教育が厳しい2件／言語の壁がある2件／他のバイト先よりも賃金が安い／外国人への差別があ

る /外に出る時間がない2件 /奨学生なのでバイトをすることは許されていない(?)

・働くこととお金を稼ぐことを楽しんでいる

3-3-8 進学について

2003年の調査では、「進学・就職」を「進路」の問題としてひとつのことがらとして扱ったが、今回は「進学」と「就職」をそれぞれ独立させた。したがって、項目立ては異なるが、参考のため、「進学」と「就職」の両方の横に2003年の「進学・就職」のグラフを置いている。



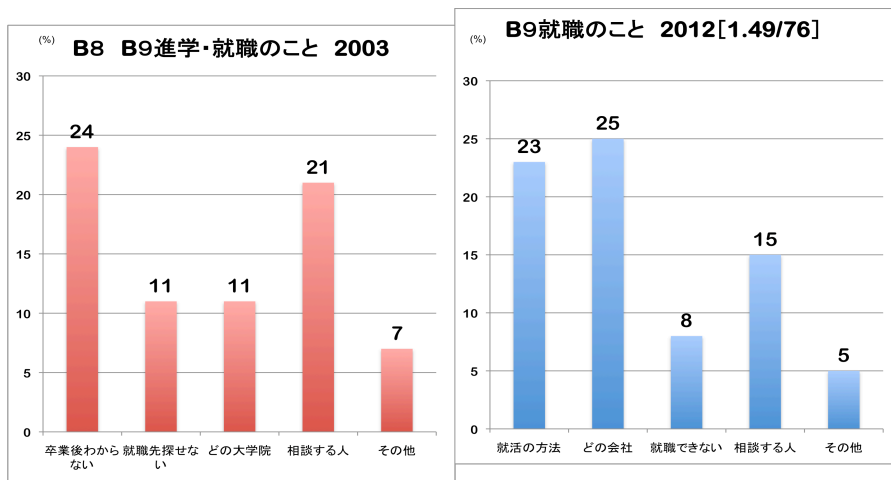
<図13 進学のこと>

右側の2012年のグラフから、1項目目の「準備の仕方がわからない」とする者や、2項目目の「どの大学院がいいかわからない」とする者が一定数おり、同数に近い学生が3項目目の「相談する人がいない」をマークしていることがわかる。留学生は日本の教育制度になじみがあるとは限らず、留学生に対しては、特に丁寧な情報提供が必要であることを改めて思い起こさせられる。具体的な困難についての記述はあまり多くはなく、以下のものに留まる。

・博士の学位を取りたい / 家族から離れ続けるのは難しい / 6か月しか日本語を学んでいないので、日本語での試験が大変 / 卒業の後どうするか心配 / 博士の学位を取るための勉強を再開する機会がない2件(政策プログラム生)

・奨学生なので進学は必要ない(政策プログラム生)

3-3-9 就職について



<図14 就職のこと>

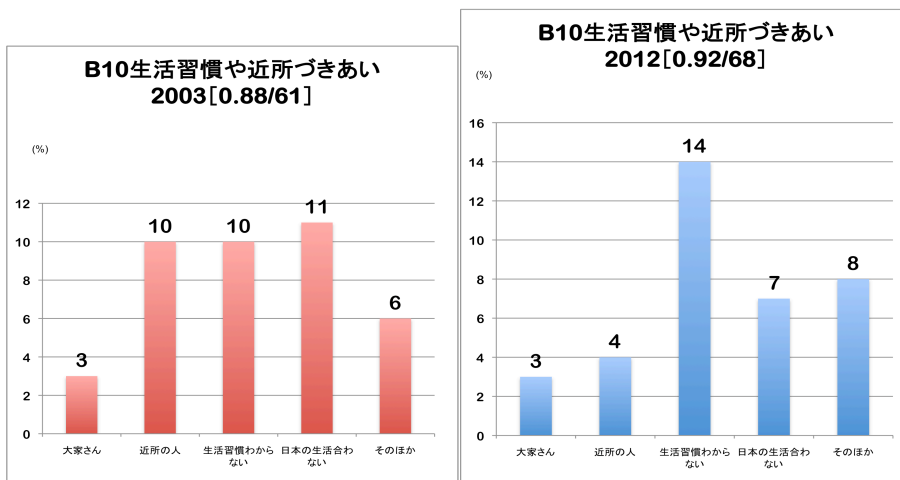
先に見たように、2012年の調査では、「就職のこと」は全項目の中で3番目に困難度が高いものとなっており、留学生にとって重大な問題のひとつであることがわかる。出身国や他の国での就職を考える留学生も少なくないと思われるが、日本で就職する留学生数は増加している。2003年（3778人）から2012年（10969人）の期間に約3倍の増加が見られる¹⁸。1983年の留学生受け入れ10万人計画では、留学生送り出し国の人材育成が目標とされていたのに対し、2008年の留学生受け入れ30万人計画においては、留学生受け入れは、高度グローバル人材の獲得として位置づけられている。本学においても、以前は卒業後に大多数が帰国していた国費留学生の中にも日本で就職するケースや就職活動を試みるケースが見られるようになってきた。私費留学生は以前から給与の面で有利であることから、まず日本での就職を望む傾向が見られたが、日本人学生の就職活動とは必ずしも連動してはいなかった。最近では日本人学生の就職活動と同じように早い時期からの本格的な取り組みが求められるようになり、慣れない留学生にとっては、困難を感じるものになっていると思われる。右上の2012年のグラフの1項目目の「就職活動のやり方がわからない」、2項目目の「どの会社がいいかわからない」という回答は、それぞれ23%、25%となっているが、日本での就職を視野に入れた回答も多いと思われる。30万人計画以降、留学生の就職支援組織や留学生を対象としたウェブサイト等が新たに生まれ、情報が得られやすくなりつつあるが、留学生にはまだ十分活用されているとは言えない。3項目目の「相談する人がいない」が15%あるが、学内で開催されている留学生対象の就職ガイダンスや相談会への出席者もけっして多くはない。就職活動の開始時期や、やり方が、出身国の場合と異なるために、情報をキャッチできず、タイミングを逃してしまうケースも多いようである。留学生に対しては様々な機会に、繰り返し情報を発信していくことが重要であると考えられる。以下は記述欄の回答である。ここに書かれているように、就職ではエントリーシートの記載や面接などで、高度な日本語力やコミュニケーション力が求められることもあり、留学

¹⁸ 「平成24年度における留学生の日本企業等への就職状況について」法務省ウェブサイト

生にとっては、困難を感じる事柄の一つと言えよう。

- ・日本語能力が問題2件：日本語が上手くないのが問題／日本語をまだ十分理解することができないので心配だ
- ・日本人とコミュニケーションが取れない
- ・就職活動が一番大変。エントリーは沢山したが落ち続けている
- ・日本で就職しない4件：将来日本で働くつもりはない／中国で就職できるか心配している／公務員なので就職活動は必要ありません／専攻が米国以外には存在しない

3-3-10 生活習慣や近所との付き合いについて



<図 15 生活習慣や大家さんや近所の人たちとの付き合いなど>

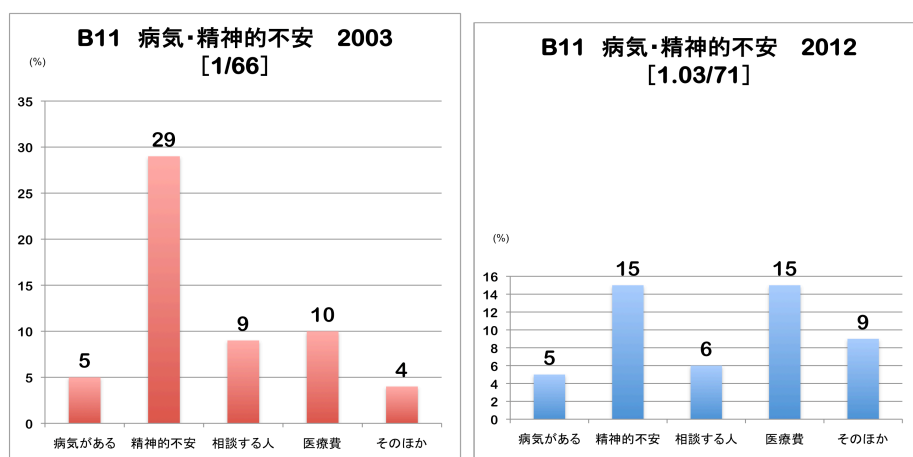
各グラフのタイトルの下の [] 内に示されている全体の数値は若干増えているが、大きくは変化していない。グラフでは、3項目目の「生活習慣でわからないことが多い」が増加している。2項目目の「近所の人とうまくいっていない」は減少しているが、近所の人との関わり自体が減っている可能性もある。4項目目の「日本の生活が合わない」とする数値も低くなっている。1項目目の「大家さんとうまくいっていない」の数値は同水準で低く留まっているが、住み方や家賃支払いなどについてのミスコミュニケーションに起因するようなトラブルがないわけではない。来日したばかりの留学生は大学寮に優先的に入居できるので、大学寮に入居している間にゴミの出し方のルールなどが確実に学習されることがトラブルを防ぐためには大切である。

以下に記した留学生のコメントに「ハラルミートを扱うレストランが少ないことに困っている」という記述がある。2011年に大学の生協食堂では、種類や数が限られているが、モスリムの学生が利用できるようハラルミートのメニューが提供されるようになった。最近では地域観光推進の観点からモスリムの観光客を呼び込むためにハラルフードの提供できるレストランについての検討も始まっているようである。留学生を受け入れるにあたっては、文化の異なりを尊重した上で日本での生活が順調に進むよう

支援を考えることが重要で、留学生達への配慮は、日本人学生達にとっても異文化を理解するための教育的な効果も持つことになるであろう。

- ・ハラルミートを扱うレストランが少ないことに困っている／時々日本の生活スタイルがとても嫌になる／日本文化に馴染めない／寮に住んでいる人がうるさいがそのことを直接言えない／ごみ出しが難しい
- ・日本の生活に慣れるよう頑張っている
- ・日本での生活を楽しんでいる／可もなく不可もなく

3-3-11 病気・精神的な不安などについて



<図 16 病気・精神的な不安など>

両グラフのタイトルの下の [] 内困難度を見ると、大きな変化は見られない。グラフで増えているのは4項目目の「高いので医者にかかれない」という医療費の問題である。2003年にはあった留学生対象の医療費補助制度がその後廃止され、留学生が病院にかかるときの支払いは以前より大きくなっている。このことが、数値を押し上げているかもしれない。一方2項目目「精神的に不安定な感じがする」は、数値が半減している。理由は不明であるが、経済的な問題から派生する不安については、経済的な問題の緩和ともなって、減少している可能性はある。しかし、全体的な困難度が減っていないことから、問題の深刻度が上がっていることも考えられる。自由記述には孤独であることや精神的な問題に触れているものも少なくない。また、経済的には特に不安のない国費留学生は、一方で学位をとることに対するプレッシャーが強いという話も聞く。学業に行き詰まったとき精神的な逃げ場を作る意味でも、日本での交友関係を広げておくことが大切に思われる。また、留学生の就職活動が活発になると、学業に集中することが難しくなり精神的な負担が生じる恐れもある。留学生が日本での交友関係を広げネットワークを築いていくための交流の機会などを設けることは問題の発生を予防する意味で重要である。

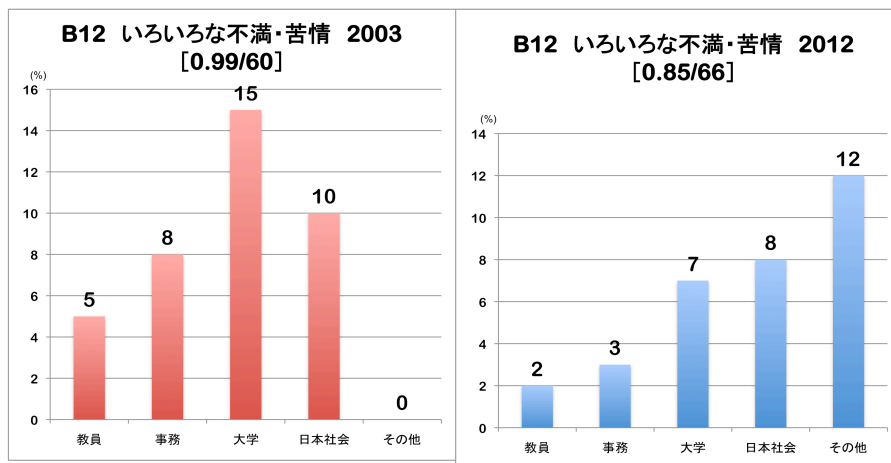
留学生には見守る家族が身近にいるわけではないので、できれば指導教員の定期的な面談や、単位取得状況のチェックなどで、問題を早期に発見する仕組みが設けられるべきであろう。以下は自由記述の内容である。

・**孤独4件**：問題はないが孤独を感じる／家族から離れて暮らすのはつらい／長期休暇中帰ることが許されたら精神面とモチベーション両方回復できる

・**その他**：プレッシャーを感じている／常に、加減が悪かったり、疲れを感じる／自分の感情を伝えることの難しさ／日本語が出来ないので病院に行く時怖い／保険料を減額して貰う為に税金の申告をしたいが方法が分からない／子供を保育園に送るのは難しい／子供の受け入れ先が少ない／家の近くにドラッグストアがない／地震が起こるか心配

・いつも元気です

3-3-12 いろいろな不満・苦情等について



<図17 いろいろな不満・苦情など>

左側の2003年と右側の2012年の1項目目「教員にたいして不満がある」と2項目目「事務の人にたいして不満がある」3項目目「大学のあり方にたいして不満がある」を比較すると、**大学や教職員に対する不満は半減している**ことがわかる。前回の調査では、経済的な問題に関連して、大学寮の入居制度に対する不満や奨学金や授業料免除の基準が不透明であるとする不満を訴える記述が少なくなかった。日頃の大学の対応に対しても厳しい意見が見られた。今回の結果から見るとそうした**不満がある程度解消されている**と言える。[]内の全体の困難度も減っている一方、「その他」をマークした者が増えており、**不満や苦情が多様化、個別化している**ことが推測される。また、留学生のコメントの中には下記に記した「授業料免除制度に国籍による差別があることが不満」や、「国費留学生はアルバイトができない」のように、**事実が誤解されていることによるものも見られた**。奨学金や授業料免除を巡って、うわさ話の類

いが事実であるかのように伝わり、誤解を生んでいることもある。留学生の場合、日本人学生であれば問題なく理解することでも、正しく理解していないこともある。ことばだけの問題ではなく、文化背景が異なれば十分理解できないということは当然起こり得る。説明する側はそのことを念頭においておくことが必要であろう。一度話したからと言って伝わっているとは限らない。**機会を見つけて説明を繰り返すことも必要となる。**以下は、この項目に書かれたコメントである。

- ・日本のライフスタイルが自分のものととても異なっている 2件
- ・学校への交通の便が不便
- ・大学の授業料免除制度に国籍による差別があることが不満 …?…
- ・経済的な環境を無視した奨学金の支給に不満がある。
- ・常に満足

3-4 そのほか留学生が困っていること

以下に最後のCの自由記述の覧に書かれた留学生のコメントのうち、Bの各項目に振り分けた以外のものをまとめた。Bの部分を含め、留学生からのコメントを2003年の記述と比較すると、**大学や日本人の留学生に対する対応への否定的な批判が減り、より良い留学生生活やより良い関係を求めているコメントが増えている。**アンケートの数値と同様に、留學生生活の困難は2003年当時に比べれば緩和されていることが表れていると言えよう。この間、大学側でも、留学生に対する支援として、大学寮の入居制度の変更、新舎の建設、住宅を借りる際の機関保証制度の実施（現在は民間保証会社利用に移行）、一時貸付制度の設定、英語対応の促進（職員、掲示等）、交流イベントの提供の促進、地域ボランティア団体との連携による個別日本語サポート、就職活動のサポート、情報提供の強化（生活ガイドブック等の発行、留学生ネットの運営等）等を進めてきた。こうした支援も留学生の大学生生活環境の改善に寄与してきたと考えられる。また、私費留学生の中にも経済的な余裕を持つ者が増えてきたことも、状況の改善に影響を与えていると言える。一方で、国費留学生は奨学金の減額や住居費用負担の増加などで、以前のような経済的な余裕はなくなったが、国費留学生と私費留学生の格差が縮んだことは、留学生間の心理的な不公平感を減らす意味ではプラスに働いている面があると考えられる。

・**交流等についての不満6件**：留学生がサークル、学園祭に入りづらいか入る方法がわからない、入りやすい環境が欲しい／大学にもっと国際交流の機会を作って欲しい／日本人の友人ができない／楽しく日本で暮らしているがもっと日本語を理解して近所の人や友人とより良くコミュニケーションを取りたい／日本人と日本人の学生はもっとフレンドリーになるべきだ／日本人学生との間に人種の壁を感じる、少し、私達交換留学生は分けられているみたいだ

・**その他**：学業、生活費、日本語、本当に大変／英語での授業があると尚良い／国民保険の減額の手続きがわからない。2件／今現在一番問題なのは担当教授が厳しすぎる／何でこれをやってくるか意味が分からない／アンケートをもっと頻繁にやってほしい

・**特に問題なし5件**：私と私の家族は大丈夫、私たちは日本と日本の人々が好きだ、日本の言語と文化を現地で学ぶ機会を得られて幸せ／3年以上日本に住んでいるので問題の解決策は分かっている、これまでの横浜国立大学での生活は全て素晴らしく実りあるものだった、ありがとう／日本での勉強に満足している／授業自体はとても良い。

4. おわりに

以上、2012年のアンケート結果を2003年の結果との比較を交えながら見てきたことをまとめると以下のようなことが言える。まず、留学生が困難に感じている事柄で割合が高いのは、「日本語のこと」、「経済的なこと」、「住宅のこと」、「学習（勉強・研究）のこと」の順であるが、困難の程度（困難度）を見ると「経済」、「日本語」、「就職」、「住宅」の順であった。「経済的な問題」と「日本語の問題」が留学生にとって最も大きい困難である。

全体としては困難の割合は2003年度より減っている。上位にあった「経済」、「住居」の数値が減少している。一方、「日本語」についての困難度が増している。特に日本語のコミュニケーションに留学生は困難を感じている。「就職」については、困難度が高い。「住居」については全体としては深刻度が減っているが、不満や要望が多数ある。大学寮において日本人学生が2年間入居できるのに対して、留学生は1年であることについては、留学生への入居機会を増やすための方策であることを説明し理解を得る必要がある。私費と国費の差が大きいのは、「経済」の困難度であるが、2003年に比べ国費留学生と私費留学生の格差が小さくなった。全体としては学部生の困難度が院生より高いが、日本語に関しては、国費院生の数値が高い。日本の教育システムに慣れていない留学生のため、履修登録の仕方や学位をとるためのガイダンスが各所であったほうがよい。留学生に対しては丁寧な情報提供が必要と考えられる。学内での交流機会が不十分だと感じている留学生がいる。また、周りの学生とうまく関係を築く事ができない留学生が一定数おり、いっそうの交流の促進を図る必要がある。

今回のアンケート調査と2003年の調査から、留学生にとっての留學生活の困難が多少なりとも緩和されていることが認められた。また、支援していく上での課題も見えてきた。大学の国際化は日本人学生の海外への送り出しに力点がおかれつつあるが、同時に受入留学生数を増やす戦略も進行している。留学生数を増やすにあたっては、経済的支援等ができるだけ公平感を持って広く行き渡るような方策、たとえば授業料免除の半額免除を増やすことや、授業料免除と奨学金が分散されるよう検討することや、留學生活の困難を減らし満足度を高めるための方策をさらに講じていくことが必要となるであろう。

〈参考文献〉

藤井桂子・門倉正美 2004 「留学生は何に困難を感じているか」-2003年度前期アンケート調査から- 『横浜国立大学留学生センター紀要11号』113-137

原田麻理子 2010 「留学生の就職プロセスに関する一考察 -大学におけるキャリア相談・支援現場からみた現状と課題-」 『留学生交流・指導研究』Vol.12 143-156 国立大学留学生指導研究協議会

横田雅弘・白土悟 2004 『留学生アドバイジング -学習・生活・心理をいかに支援するか-』 ナカニシヤ出版

留学生が困っていることについてのアンケート 2012年7月 YNU 留学生支援委員会

このアンケートの目的は、留学生が困っていること、支援 (help) してほしいことの内容を知って、それらについて、できるだけ支援できる体制・システムを作っていくことです。

■あなたの身分: 1. 学部生__年生 2. 研究生 3. 大学院生M__年生 D__年生 4. JOY生
 5. 個別短期留学生 6. 特別プログラム生 (プログラムの名前)
 7. 予備教育研修生 8. 教員研修生 9. 日韓生 ■所属 (学部/学府/研究科)

■奨学金をもらっていますか? : [1. はい 2. いいえ]

■「はい」の人→もらっている奨学金は何ですか?
 [1. 国費 2. 学習奨励費 3. 民間奨学金 4. その他 ()]

■現在どこに住んでいますか?
 [1. 民間アパート 2. 横浜市や神奈川県 3. 大学の寮 4. 大岡 IR 5. その他 ()]

■困ったとき相談する人がいますか? [1. はい 2. いいえ]

■「はい」の人→誰と相談しますか? []

《A》あなたが横浜国立大学で学んだり、生活したりするときに、困っていること、相談したいこと、助けてほしいことは何ですか。下の項目の中から、いくつでも選んで、困っている程度をあらわす数字にまる (○) をつけてください。困っていないときは○をつけないでいいです。
 1は「すこし困っていること」、2は「困っていること」、3が「とても困っていること」です。

	すこし	とも
1. 住居のこと (アパート、寮などの問題)	1	2 3
2. 経済的なこと (お金のこと)	1	2 3
3. 勉強・研究のこと	1	2 3
4. 日本語のこと	1	2 3
5. 友だちや先生との人間関係のこと	1	2 3
6. チューターのこと	1	2 3
7. アルバイトのこと	1	2 3
8. 進学のこと	1	2 3
9. 就職のこと	1	2 3
10. 生活習慣、大家さんや近所の人たちとの付き合いなど	1	2 3
11. 病気、精神的な不安など	1	2 3
12. いろいろな不満・苦情など	1	2 3
13. その他 ()	1	2 3

《B》上の1~12の項目について、それぞれあてはまる数字全部にまる (○) をつけてください。「5. その他」をえらんだ人は、困っていることについて書いてください。

- (1) 住居のこと
1. アパートの家賃が高い 2. 寮に入りたいが入れない
 3. アパートの環境が悪い 4. アパートが大学から遠い
 5. その他 ()
- (2) 経済的なこと
1. 授業料免除がうけられない 2. 奨学金がうけられない
 3. いいアルバイトがない 4. 親が送金するのがたいへんである
 5. その他 ()
- (3) 勉強・研究のこと
1. 大学の授業がよく分からない 2. 学習時間が十分にとれない
 3. 指導教員によく教えてもらえない 4. 学位がなかなかとれない
 5. その他 ()

裏へ

(4) 日本語のこと

1. 日本語でコミュニケーションがよくできない
2. 講義の日本語が十分理解できない
3. 日本語を教えてくれる人がいない
4. 日本語の学習時間が十分にとれない
5. その他 ()

(5) 友だちや先生との人間関係のこと

1. 友だちが少ない (いない)
2. 日本人 (学生) とうまくつきあえない
3. 研究室やゼミの人間関係がよくない
4. 事務の人とうまくつきあえない
5. その他 ()

(6) チューターのこと

1. チューターがあまり会ってくれない
2. チューターが親切じゃない
3. チューターとうまく話せない
4. チューターが役に立たない
5. その他 ()

(7) アルバイトのこと

1. アルバイトしたいが、できない
2. いいアルバイトがない
3. アルバイトに時間がとられてしまう
4. アルバイト先の人間関係がよくない
5. その他 ()

(8) 進学のこと

1. 進学の準備のしかたがわからない
2. どの大学院がいいか、わからない
3. 大学院になかなか合格できない
4. 進学について相談する人がいない
5. その他 ()

(9) 就職のこと

1. 就職活動のやり方が、わからない
2. どの会社がいいか、わからない
3. 就職先がみつからない
4. 就職について相談する人がいない
5. その他 ()

(10) 生活習慣、大家さんや近所の人たちとの付き合いなど

1. 大家さんとうまくいっていない
2. 近所の人とうまくいっていない
3. 生活習慣で分からないことが多い
4. 日本での生活が自分にあわない
5. その他 ()

(11) 病気、精神的な不安など

1. 病気をもっているので心配である
2. 精神的に不安定な感じがする
3. 身体や精神の問題について相談できる人がいない
4. 高いので医者にかかれない
5. その他 ()

(12) いろいろな不満・苦情など

1. 教員にたいして不満がある
2. 事務の人にたいして不満がある
3. 大学のあり方にたいして不満がある
4. 日本社会にたいして不満がある
5. その他 ()

《C》「13. その他」に、どのようなことがありますか。思っていることを、できるだけたくさん、自由に書いてください。1～12の項目について詳しく書いてもいいです。